

防災・日本再生シンポジウム



紀伊半島大水害の経験を踏まえ、 これからの地域防災を考える

～地域と大学の協働による東南海・南海地震対策～

開催日時／平成24年 **12月2日** (日)
13:30～16:45



開催場所／和歌山県立情報交流センター
ビッグ・ユー 多目的ホール (田辺市新庄町3353-9)

対象者／一般市民、行政職員、教育機関関係者

参加費無料 ※事前申込願います。(当日受付も可)



JR白浜駅からお越しいただく場合は
タクシー又はバスで約5分です。



主催：国立大学法人和歌山大学 共催：一般社団法人国立大学協会

後援：和歌山県、和歌山県教育委員会、田辺市、田辺市教育委員会、
社会福祉法人和歌山県社会福祉協議会、高等教育機関コンソーシアム和歌山

2011年の台風12号によって紀伊半島では、未曾有な紀伊半島大水害が発生しました。それは約120年ぶりの大雨によって、土砂災害、洪水が発生し、和歌山県内で多くの人命が失われました。過去に類似した災害を体験していたのに、私たちの多くは忘れていました。伝承されていなかったのです。それは今世紀に発生するであろう東南海・南海地震についても同様なことが心配されます。そこで、これからの私たちに必要な備えを考えるために大学としての研究成果をはじめ、これから必要な地方自治体や関係団体との連携、類似した環境を持つ他大学との連携について考えるシンポジウムを開催します。

東南海・南海地震では関東から九州までの太平洋沿岸の広い範囲で大きな被害の出ることが予想されています。災害時には、それぞれの地域個別での対応では不十分であることは東日本大震災の経験でも明らかであり、被災が予想される広い地域に有する自治体・大学や関係団体が幅広く連携を図り、有事の時の対応について協働体制を築いていくことが必要です。特にこれらの地域にある大学は、それぞれが先進的で特徴ある防災に関する研究を行っており、その成果を融合させることにより、より高度な防災対策の実施につながります。シンポジウムでは、地方自治体・大学・関係団体が東南海・南海地震に向け、どのような協働体制を築いていくべきなのかを考えます。

プログラム

- 13：30～ 開会挨拶 和歌山大学 学長 山本健慈
- 13：35～ 基調講演「過去の災害に学び、未来の災害に備える」
関西学院大学総合政策学部 教授 室崎益輝氏
- 14：25～ 休憩
- 14：35～ 紀伊半島大水害報告・提言(土砂災害・洪水からの歴史資料修復・写真修復・災害ボランティアセンター)
此松 昌彦 (和歌山大学防災研究教育センター長/教育学部 教授)
藤本清二郎 (和歌山大学紀州経済史文化史研究所 幹事/教育学部 教授)
中村勇太郎 (和歌山大学観光学部2年生/ボランティア団体「FORWARD」代表)
出口 寿久 (和歌山大学地域連携・生涯学習センター長/教授)
- 15：40～ 休憩
- 15：45～ パネルディスカッション「災害に備えるための地方自治体・関係団体・大学の連携について」
パネリスト
室崎益輝氏 (関西学院大学総合政策学部 教授)
玉置俊久氏 (日高川町長)
中野 晋氏 (徳島大学環境防災研究センター 教授)
土橋一晃氏 (特定非営利活動法人わかやまNPOセンター事務局次長)
コーディネーター
照本清峰 (和歌山大学防災研究教育センター 特任准教授)
- 16：40～ 閉会挨拶 和歌山大学 理事・副学長・地域創造支援機構長 平田健正

申込方法：氏名、所属機関、役職、電話番号、メールアドレスを下記申込書に記入し、FAXにて送信するか、メール、電話にてお申し込み下さい。

申込期限：平成24年11月26日(月)

申込先：国立大学法人和歌山大学 研究協力課

〒640-8510 和歌山市栄谷930 TEL.073-457-7558 FAX.073-457-7550
bousai01@center.wakayama-u.ac.jp

防災・日本再生シンポジウム参加申込書

※必要事項をご記入の上、11月26日(月)までにFAXにて送信するか、①～⑨の内容をメール、電話にてお申し込み下さい。

①フリガナ				③ 年齢	才	④ 性別	男・女
②お名前				⑧ 電話番号	()	-	
⑤住所	〒 -			⑨ 電子メール	@		
⑥所属			⑦ 役職				

※このお申し込み情報は本シンポジウム開催の目的以外では使用しません。